

8課

キリストの復活の力

8月22日

安息日午後

8月15日

暗証聖句

もしキリストがよみがえらなかったとしたら、わたしたちの宣教はむなしく、あなたがたの信仰もまたむなしい。……もしキリストがよみがえらなかったとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にいることになる。(Iコリント 15:14、17、口語訳)

そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。……そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお罪の中にあることになります。(Iコリント 15:14、17、新共同訳)

今週の聖句

Iコリント 15章、ルカ 24:44～47、黙示録 20:5、6、コロサイ 2:12、
IIテモテ 1:12、Iテサロニケ 4:13～17

今週のテーマ

パウロの時代でさえ、死者の復活を否定する人々に彼が対処しなければならなかったというのは、なんと興味深いことでしょう。当時の人々も、死が人体に何をもちこたすかを自分の目で見て知っていました。死体は液状化し、やがて乾いて塵となり、ついにはほとんど何も残らなくなってしまいます。また彼らは、人がずっと死んだままでいるということも、よくわかっていました。実際、多くの人は、生きていた時間よりもはるかに長い間、死んだ状態にあるのです。

死者の復活は、少なくとも人間的な観点から言えば、現代の私たちと同様に、当時の人々にとっても信じがたいことに思えました。ですから、それこそが、パウロの取り組んでいた問題だったに違いありません。

しかも、それは重大な問題でした。もしイエスが復活されなかったとしたら、彼は、自らが語られたような方ではなく、十字架には何の効果もなく、私たちの罪はあがなわれていないことになります。残るのは絶望だけです。しかし、私たちの主は復活し、天に昇り、私たちを家に連れ帰るために戻って来られます！ 今週は、Iコリント 15章の復活に関する教えに焦点を当てます。

【参考】英語テキストには本文に続きがあります。

Influenced by the surrounding pagan worldview, some in Corinth were saying that there is no resurrection. In response, Paul affirms the resurrection of Christ as our only hope of salvation.

周囲の異教徒の世界観の影響を受けて、コリントの一部の人々は「復活などない」と主張していました。これに対し、パウロは、キリストの復活こそが私たちの救いの唯一の希望であると断言しています。

53

I コリ 15 章 (新共同訳)

15:1 兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。

15:2 どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。

15:3 最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、

15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、

15:5 ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。

15:6 次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。

15:7 次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、

15:8 そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。

15:9 わたしは、神の教会を迫害したので、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。

15:10 神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他

I コリ 15 章 (口語訳)

15:1 兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受け入れ、それによって立ってきたあの福音を、思い起してもらいたい。

15:2 もしあなたがたが、いたずらに信じてないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。

15:3 わたしが最も大切なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであつた。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、

15:4 そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえつたこと、

15:5 ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。

15:6 そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠った者たちもいるが、大多数はいまなお生存している。

15:7 そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、

15:8 そして最後に、いわば、月足らずに生れたようなわたしにも、現れたのである。

15:9 実際わたしは、神の教会を迫害したのであるから、使徒たちの中でいちばん小さい者であつて、使徒と呼ばれる値うちのない者である。

15:10 しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜わつた神の恵みはむだになら

のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。

15:11 とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

15:12 キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。

15:13 死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずです。

15:14 そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。

15:15 更に、わたしたちは神の偽証人とさえ見なされます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないなら、復活しなかったはずのキリストを神が復活させたと言って、神に反して証しをしたことになるからです。

15:16 死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずです。

15:17 そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今なお罪の中にあることになります。

15:18 そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅んでしまったわけです。

15:19 この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。

15:20 しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となりました。

15:21 死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。

15:22 つまり、アダムによってすべての

ず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。

15:11 とにかく、わたしにせよ彼らにせよ、そのように、わたしたちは宣べ伝えており、そのように、あなたがたは信じたのである。

15:12 さて、キリストは死人の中からよみがえったのだと宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死人の復活などはないと言っているのは、どうしたことか。

15:13 もし死人の復活がないならば、キリストもよみがえらなかつたであろう。

15:14 もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、わたしたちの宣教はむなしく、あなたがたの信仰もまたむなし。

15:15 すると、わたしたちは神にそむく偽証人にさえるわけだ。なぜなら、万一死人がよみがえらないとしたら、わたしたちは神が実際よみがえらせなかつたはずのキリストを、よみがえらせたと言って、神に反するあかしを立てたことになるからである。

15:16 もし死人がよみがえらないなら、キリストもよみがえらなかつたであろう。

15:17 もしキリストがよみがえらなかつたとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にいることになる。

15:18 そうだとすると、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのである。

15:19 もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいだいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。

15:20 しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。

15:21 それは、死がひとりの人によってきたのだから、死人の復活もまた、ひとりの人によってこなければならぬ。

15:22 アダムにあってすべての人が死ん

人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。

15:23 ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、

15:24 次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。

15:25 キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです。

15:26 最後の敵として、死が滅ぼされます。

15:27 「神は、すべてをその足の下に服従させた」からです。すべてが服従させられたと言われるとき、すべてをキリストに服従させた方自身が、それに含まれていないことは、明らかです。

15:28 すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。

15:29 そうでなければ、死者のために洗礼を受ける人たちは、何をしようとするのか。死者が決して復活しないのなら、なぜ死者のために洗礼など受けるのですか。

15:30 また、なぜわたしたちはいつも危険を冒しているのですか。

15:31 兄弟たち、わたしたちの主キリスト・イエスに結ばれてわたしが持つ、あなたがたに対する誇りにかけて言えば、わたしは日々死んでいます。

15:32 単に人間的な動機からエフェソで野獣と闘ったとしたら、わたしに何の得があったでしょう。もし、死者が復活しないとしたら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」ということになります。

15:33 思い違いをしてはいけません。「悪いつきあいは、良い習慣を台なしにする」のです。

でいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。

15:23 ただ、各自はそれぞれの順序に従わねばならない。最初はキリスト、次に、主の来臨に際してキリストに属する者たち、

15:24 それから終末となって、その時に、キリストはすべての君たち、すべての権威と権力を打ち滅ぼして、国を父なる神に渡されるのである。

15:25 なぜなら、キリストはあらゆる敵をその足もとに置く時まで、支配を続けることになっているからである。

15:26 最後の敵として滅ぼされるのが、死である。

15:27 「神は万物を彼の足もとに従わせた」からである。ところが、万物に従わせたと言われる時、万物に従わせたかたがそれに含まれていないことは、明らかである。

15:28 そして、万物が神に従う時には、御子自身もまた、万物に従わせたそのかたに従うであろう。それは、神がすべての者において、すべてとなられるためである。

15:29 そうでないとするれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとするれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。

15:30 また、なんのために、わたしたちはいつも危険を冒しているのか。

15:31 兄弟たちよ。わたしたちの主キリスト・イエスにあって、わたしがあなたがたにつき持っている誇りにかけて言うが、わたしは日々死んでいるのである。

15:32 もし、わたしが人間の考えによってエベソで獣と戦ったとすれば、それはなんの役に立つのか。もし死人がよみがえらないのなら、「わたしたちは飲み食いしようではないか。あすもわからぬのちなのだ」。

15:33 まちがってはいけません。「悪い交わりは、良いならわしをそこなう」。

15:34 正気になって身を正しなさい。罪を犯してはならない。神について何も知らない人がいるからです。わたしがこう言うのは、あなたがたを恥じ入らせるためです。

15:35 しかし、死者はどんなふうに復活するのか、どんな体で来るのか、と聞く者がいるかもしれません。

15:36 愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命を得ないではありませんか。

15:37 あなたが蒔くものは、後でできる体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。

15:38 神は、御心のままに、それに体を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになります。

15:39 どの肉も同じ肉だというわけではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉と、それぞれ違います。

15:40 また、天上の体と地上の体があります。しかし、天上の体の輝きと地上の体の輝きとは異なっています。

15:41 太陽の輝き、月の輝き、星の輝きがあって、それぞれ違いますし、星と星との間の輝きにも違いがあります。

15:42 死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、

15:43 蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。

15:44 つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。

15:45「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。

15:46 最初に霊の体があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。

15:34 目ざめて身を正し、罪を犯さないようにしなさい。あなたがたのうちには、神について無知な人々がいる。あなたがたをはずかしめるために、わたしはこう言うのだ。

15:35 しかし、ある人は言うだろう。「どんなふうにして、死人がよみがえるのか。どんなからだをして来るのか」。

15:36 おろかな人である。あなたのまくものは、死ななければ、生かされないではないか。

15:37 また、あなたのまくのは、やがて成るべきからだをまくのではない。麦であっても、ほかの種であっても、ただの種粒にすぎない。

15:38 ところが、神はみこころのままに、これにからだを与え、その一つ一つの種にそれぞれのからだをお与えになる。

15:39 すべての肉が、同じ肉なのではない。人の肉があり、獣の肉があり、鳥の肉があり、魚の肉がある。

15:40 天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違って

いる。

15:41 日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。

15:42 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、

15:43 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、

15:44 肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きたものとなった」と書いてあるとおりである。しかし最後のアダムは命を与える霊となった。

15:46 最初にあったのは、霊のものではなく肉のものであって、その後に霊のものが来るのである。

15:47 最初の人は土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です。

15:48 土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。

15:49 わたしたちは、土からできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもなるのです。

15:50 兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。

15:51 わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。

15:52 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。

15:53 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります。

15:54 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。「死は勝利にのみ込まれた。

15:55 死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」

15:56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。

15:57 わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜る神に、感謝しよう。

15:58 わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずですよ。

15:47 第一の人は地から出て土に属し、第二の人は天から来る。

15:48 この土に属する人に、土に属している人々は等しく、この天に属する人に、天に属している人々は等しいのである。

15:49 すなわち、わたしたちは、土に属している形をとっているのと同様に、また天に属している形をとるであろう。

15:50 兄弟たちよ。わたしはこの事を言うておく。肉と血とは神の国を継ぐことができないし、朽ちるものは朽ちないものを継ぐことがない。

15:51 ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。

15:52 というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。

15:53 なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。

15:54 この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである。

15:55 「死は勝利にのみ込まれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。

死よ、おまえのとげは、どこにあるのか。」
15:56 死のとげは罪である。罪の力は律法である。

15:57 しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。

15:58 だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。

パウロは、福音に焦点を合わせることで I コリント 15 章を始めています。彼は、(1) コリントの信徒に告げ知らせた福音、(2) 彼らが受け入れた福音、(3) 彼らが拠り所とする福音、(4) 彼らを救った福音 (I コリ 15:1, 2) について語ります。この冒頭部分は、あとに続く 15 章の内容に読者を備えさせ、キリストの復活が私たちの救いにとっていかに不可欠であることを示しています (ロマ 10:9、10 も参照)。キリストの復活は福音メッセージの極めて重要な部分であり、それを否定することはキリストに対する信仰と矛盾します。

問1 I コリント 15:1~4、ルカ 24:44~47、ローマ 1:1~4 を読んでください。これらの箇所には、どんな共通点がありますか。

I コリント 15:1~4 には、パウロのメッセージの要約が記されています。「聖書に書いてあるとおり」という言葉が旧約聖書の特定の箇所を指すのか、旧約聖書全体を指すのかは、問題ではありません。イエスの死と復活は、旧約聖書にある神の約束を成就するものです。

問2 I コリント 15:2、11 を読んでください。これらの聖句では、なぜ「宣べ伝えること」と「信じること」という概念が並んでいるのでしょうか。この二つの間には、どんな関係がありますか。

キリストの復活を宣べ伝える者はみな、まず彼の復活が歴史的な出来事であると信じなければなりません。この点において、I コリント 15:5~8 は、新約聖書の中で重要な役割を果たします。この箇所は、キリストの復活後、多くの人々が彼を目撃したという確かな聖書的証拠を示しており、目撃者の多くは、パウロがこの手紙を書いた当時からまだ生きていました (同 15:6)。

要するにパウロは、「行って、彼らが何を見たのか、自分で尋ねてみなさい」と言っているのです。それほどまでに、パウロはキリストの復活の現実性に確信を持っていました。

これらの人たちは目撃者でした。彼らは、イエスが言われたとおり、「これらのことの証人」(口語訳「これらの事の証人」)(ルカ 24:48) となったのです。

キリストの復活を信じる理由には、どんなものがあるのでしょうか。

【参考】英語テキストにある全文

What reasons do we have for believing in Christ's resurrection? Also, what other things, secular or sacred, do we believe even if we haven't seen them ourselves?

キリストの復活を信じる理由には、どんなものがあるでしょうか。また、自分ではまだ見たことがないにもかかわらず、私たちが信じている世俗的なものや霊的なものには、他にどのようなものがあるのでしょうか。

54

I コリ 15:1~11 (新共同訳)

15:1 兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。

15:2 どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。

15:3 最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、

15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、

15:5 ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。

15:6 次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。

15:7 次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、

15:8 そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。

15:9 わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。

15:10 神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。

I コリ 15:1~11 (口語訳)

15:1 兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受け入れ、それによって立ってきたあの福音を、思い起してもらいたい。

15:2 もしあなたがたが、いたずらに信じてないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。

15:3 わたしが最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであつた。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、

15:4 そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえつたこと、

15:5 ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。

15:6 そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠った者たちもいるが、大多数はいまなお生存している。

15:7 そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、

15:8 そして最後に、いわば、月足らずに生まれたようなわたしにも、現れたのである。

15:9 実際わたしは、神の教会を迫害したのであるから、使徒たちの中でいちばん小さい者であつて、使徒と呼ばれる値うちのない者である。

15:10 しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜つた神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあつた神の恵みである。

15:11 とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

ロマ 9:9、10 （新共同訳）

9:9 約束の言葉は、「来年の今ごろに、わたしは来る。そして、サラには男の子が生まれる」というものでした。

9:10 それだけではなく、リベカが、一人の人、つまりわたしたちの父イサクによって身ごもった場合にも、同じことが言えます。

ルカ 24:44～48 （新共同訳）

24:44 イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」

24:45 そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、

24:46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』

24:47 また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、

24:48 あなたがたはこれらのことの証人となる。

ロマ 1:1～4 （新共同訳）

1:1 キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、――

1:2 この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、

1:3 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、

1:4 聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。

15:11 とにかく、わたしにせよ彼らにせよ、そのように、わたしたちは宣べ伝えており、そのように、あなたがたは信じたのである。

ロマ 9:9、10 （口語訳）

9:9 約束の言葉はこうである。「来年の今ごろ、わたしはまた来る。そして、サラに男子が与えられるであろう」。

9:10 そればかりではなく、ひとりの人、すなわち、わたしたちの父祖イサクによって受胎したリベカの場合も、また同様である。

ルカ 24:44～48 （口語訳）

24:44 それから彼らに対して言われた、「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。

24:45 そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて

24:46 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。

24:47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。

24:48 あなたがたは、これらの事の証人である。

ロマ 1:1～4 （口語訳）

1:1 キリスト・イエスの僕、神の福音のために選ばれたれ、召されて使徒となったパウロから――

1:2 この福音は、神が、預言者たちにより、聖書の中で、あらかじめ約束されたものであって、

1:3 御子に関するものである。御子は、肉によればダビデの子孫から生れ、

1:4 聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められた。これがわたしたちの主イエス・キリストである。

I コリント15:9～19でパウロは、復活を否定することがどれほど深刻で恐ろしい結果を招くかを説明しています。復活がなければ、信者は現在に希望を持てず、ましてや未来に希望を持つことはできません。

問3 I コリント 15:9～19 を読んでください。キリストが復活されなかったとしたら、私たちは何を失うのでしょうか。

古代異教徒は一般的に、復活を信じていませんでした。特に、肉体と魂の二元論(魂は、死後、死者の魂が行くとされる場所へ飛び去ること)を信じるギリシア世界ではなおさらでした。パウロは、I コリント15:12～19の最初の段落を、深い困惑を示す修辭的な問いで始めています。「あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか」〔口語訳「あなたがたの中のある者が、死人の復活などはないと言っているのは、どうしたことか」〕(I コリ 15:12)。パウロにとって、復活を信じないなどということは考えられないことでした。なぜなら、多くの目撃者がいたからです(同 15:5～8)。しかし、もっと悪いことに、復活がなければ、彼らの希望は、偽りの上に築かれていることになり、彼らは依然として罪の中にいることになります。

実際、死者の復活がなければ、(1)キリストも復活しなかったし(I コリ 15:13, 16)、(2)私たちの宣教は無駄であるし〔口語訳:わたしたちの宣教はむなしく〕(同 15:14)、(3)私たちの信仰も無駄であるし〔口語訳:信仰もまたむなしき〕(同)、(4)私たちは偽証人であり(同 15:15)、(5)私たちの信仰はむなしき〔口語訳:信仰は空虚なものとなり〕(同 15:17)、(6)私たちは今もなお罪の中にあり(同)、明らかに、(7)死んだ人々もはや存在しないことになる(同 15:18)と、パウロは言っています。

復活がなければ、宣教も信仰も無駄です(むなしき)(I コリ 15:14)。「無駄(むなしき)」と訳されているギリシア語は「ケノス」で、「無駄(むなしき)」という訳語は悪くないのですが、意味に幅がありすぎます。「ケノス」が真理に欠けている(つまり「真実でない」という意味で無駄な(むなしき)のか、結果に欠けている(つまり「効果がない」という意味で無駄な(むなしき)のか、目的に欠けている(つまり「むなしき」 / so, “without purpose,” “in vain” つまり「目的がない」、「むなしき(無駄)」)という意味で無駄な(むなしき)のか、解釈者の間では議論が交わされています。

具体的な意味はともかく、もし復活が存在しないという前提に立てば、信仰はむなしき〔as futile, 無益な・無駄な、効果のない〕(ギリシア語の「マタイオス」[I コリ 15:17])ものと見なされます。「マタイオス」と「ケノス」に大きな違いはありませんが、その意味するところは、もしイエスが生きておられないとしたら、私たちの罪は赦されていないので、信仰は実を結ばぬ幻想にすぎないということです(同 15:17)。私たちは偽証人となり、人を欺き、自分も欺かれていることになります(同 15:15)。

【参考】英語テキストにある文

How does one make sense of 1 Corinthians 15 if the dead soar off to heaven (or to hell) immediately? Why, then, is understanding that the dead sleep such an important teaching?

もし死者がすぐに天国(あるいは地獄)へと連れて行かれるのであれば、I コリント 15 章をどのように理解すればよいのでしょうか。では、なぜ「死者は眠っている」という理解が、これほど重要な教えとなるのでしょうか。

55

I コリ 15:5~19 (新共同訳)

15:5 ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。

15:6 次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたらしく、大部分は今なお生き残っています。

15:7 次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、

15:8 そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。

15:9 わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。

15:10 神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。

15:11 とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

15:12 キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。

15:13 死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずですよ。

15:14 そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。

I コリ 15:5~19 (口語訳)

15:5 ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。

15:6 そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠った者たちもいるが、大多数はいまなお生存している。

15:7 そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、

15:8 そして最後に、いわば、月足らずに生れたようなわたしにも、現れたのである。

15:9 実際わたしは、神の教会を迫害したのであるから、使徒たちの中でいちばん小さい者であって、使徒と呼ばれる値うちのない者である。

15:10 しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜った神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。

15:11 とにかく、わたしにせよ彼らにせよ、そのように、わたしたちは宣べ伝えており、そのように、あなたがたは信じたのである。

15:12 さて、キリストは死人の中からよみがえったのだと宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死人の復活などはないと言っているのは、どうしたことか。

15:13 もし死人の復活がないならば、キリストもよみがえらなかつたであらう。

15:14 もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、わたしたちの宣教はむなし、あなたがたの信仰もまたむなし。

15:15 更に、わたしたちは神の偽証人とさえ見なされます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないなら、復活しなかったはずのキリストを神が復活させたと言って、神に反して証しをしたことになるからです。

15:16 死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずです。

15:17 そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もお罪の中にあることになります。

15:18 そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅んでしまったわけです。

15:19 この世の生活でキリストに望みをかけていただけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。

15:15 すると、わたしたちは神にそむく偽証人にさえなるわけだ。なぜなら、万一死人がよみがえらないとしたら、わたしたちは神が実際よみがえらせなかったはずのキリストを、よみがえらせたと言って、神に反するあかしを立てたことになるからである。

15:16 もし死人がよみがえらないなら、キリストもよみがえらなかったであろう。

15:17 もしキリストがよみがえらなかったとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にいることになるう。

15:18 そうだとすると、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのである。

15:19 もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいただいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。

火曜日 8月18日 初穂なるキリスト

もしイエスが生きておられないとしたら、未来についてのどんな期待も単なる幻想にすぎないでしょう(Ⅰコリ 15:12~19)。「しかし、実際、キリストは死者の中から復活(され)……ました」〔口語訳「しかし事実、キリストは……死人の中からよみがえったのである」〕(同 15:20)。キリストの復活は、歴史的な出来事です。したがって、キリストにあって死んだすべての人は、キリストが来られるときに復活すると確信できます(同 15:20~23)。

問4 Ⅰコリント 15:20~23 を読んでください。イエスが「初穂」であるとは、どういう意味でしょうか。

現在の邪悪な時代の終わりは、キリストにあって死んだ人々の肉体の復活によって特徴づけられます(Ⅰコリ 15:24、黙 20:5、6)。最後のアダムであるキリストは、この世の支配権をご自身に取り戻すことによって、御国を父なる神にお返しします(Ⅰコリ 15:25~28)。キリストが神に服従されることは(同 15:28)、アダムとキリストが互いの関係においてどのように描かれているかという観点から理解されなければなりません。救済計画における究極のアダムとして(同 15:45)、イエスは父なる神の御心に完全に服従されます。これは最初のアダムができなかったことです。

I コリント15:29～34でパウロは、キリストの復活を否定することの愚かさについて再び論じています。パウロがバプテスマのたとえを用いているのは、バプテスマ自体がキリストの死と復活において信者とキリストが一体になることの象徴だからです(ロマ6:3、4、コロ2:12)。復活の現実を否定することは、まったく意味がありません。しかし、パウロが「死者のために洗礼を受ける」[口語訳「死者のためにバプテスマを受ける」](I コリ15:29)という表現で、何を意味していたのかは理解しにくいところです。

「さまざまな提案がなされているが、この表現は、死んだ愛する人と復活の時に再会できるよう、バプテスマを受ける決心をした人たちのことを指していると解釈するのがよいだろう。また、バプテスマを受ける決心は、キリストにあって死んだ人々の模範的な生き方に対する応答であったとも考えられる。この場合、彼らは死者の代わりにバプテスマを受けたのではなく、死者のゆえにバプテスマを受けたのである」(カール・P・コサート「コリントの信徒への手紙 I」『アンドリュース聖書注解—新約聖書』1652 ページ、英文)。

【参考】 — Carl P. Cosaert, “1 Corinthians,” Andrews Bible Commentary: New Testame

“Different suggestions have been offered, but it is better to interpret the expression as referring to the decision of some to be baptized so that they would be able to be reunited with dead loved ones at the resurrection. It could also be that the decision to be baptized was a response to the exemplary life of those who had died in Christ. This case would refer to people not being baptized in place of the dead but because of the dead.”

第二に、もし復活がなければ、死の危険を冒しても無意味です(I コリ15:30～32)。むしろ、この世の快樂を楽しむほうがよいでしょう(同15:32)。

【参考】英語テキストにある文

Reflect on Paul’s words in 2 Timothy 1:12. How could he be so sure about the future? How can we?

Ⅱテモテ1:12にあるパウロの言葉を振り返ってみましょう。なぜ彼は未来についてこれほど確信を持てたのでしょうか。私たちにはどうすればそうできるのでしょうか。

56

I コリ 15:12～34 (新共同訳)

15:12 キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。

15:13 死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずです。

15:14 そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。

I コリ 15:12～34 (口語訳)

15:12 さて、キリストは死人の中からよみがえったのだと宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死人の復活などはないと言っているのは、どうしたことか。

15:13 もし死人の復活がないならば、キリストもよみがえらなかつたであろう。

15:14 もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、わたしたちの宣教はむなし、あなたがたの信仰もまたむなし。

15:15 更に、わたしたちは神の偽証人とさえ見なされます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないなら、復活しなかったはずのキリストを神が復活させたと言って、神に反して証しをしたことになるからです。

15:16 死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずです。

15:17 そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今なお罪の中にあることになります。

15:18 そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅んでしまったわけですね。

15:19 この世の生活でキリストに望みをかけていただけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。

15:20 しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となりました。

15:21 死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。

15:22 つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。

15:23 ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、

15:24 次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。

15:25 キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです。

15:26 最後の敵として、死が滅ぼされます。

15:27 「神は、すべてをその足の下に服従させた」からです。すべてが服従させら

15:15 すると、わたしたちは神にそむく偽証人にさえなるわけだ。なぜなら、万一死人がよみがえらないとしたら、わたしたちは神が実際よみがえらせなかったはずのキリストを、よみがえらせたと言って、神に反するあかしを立てたことになるからである。

15:16 もし死人がよみがえらないなら、キリストもよみがえらなかったであろう。

15:17 もしキリストがよみがえらなかったとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にいることになるだろう。

15:18 そうだとすると、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのである。

15:19 もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいただいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。

15:20 しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。

15:21 それは、死がひとりの人によってきたのだから、死人の復活もまた、ひとりの人によってこなければならぬ。

15:22 アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。

15:23 ただ、各自はそれぞれの順序に従わねばならない。最初はキリスト、次に、主の来臨に際してキリストに属する者たち、

15:24 それから終末となって、その時に、キリストはすべての君たち、すべての権威と権力を打ち滅ぼして、国を父なる神に渡されるのである。

15:25 なぜなら、キリストはあらゆる敵をその足もとに置く時まで、支配を続けることになっているからである。

15:26 最後の敵として滅ぼされるのが、死である。

15:27 「神は万物を彼の足もとに従わせた」からである。ところが、万物に従わ

れたと言われるとき、すべてをキリストに服従させた方自身が、それに含まれていないことは、明らかです。

15:28 すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。

15:29 そうでなければ、死者のために洗礼を受ける人たちは、何をしようとするのか。死者が決して復活しないのなら、なぜ死者のために洗礼など受けるのですか。

15:30 また、なぜわたしたちはいつも危険を冒しているのですか。

15:31 兄弟たち、わたしたちの主キリスト・イエスに結ばれてわたしが持つ、あなたがたに対する誇りにかけて言えば、わたしは日々死んでいます。

15:32 単に人間的な動機からエフェソで野獣と闘ったとしたら、わたしに何の得があったでしょう。もし、死者が復活しないとしたら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」ということになります。

15:33 思い違いをはいけません。「悪いつきあいは、良い習慣を台なしにする」のです。

15:34 正気になって身を正しなさい。罪を犯してはならない。神について何も知らない人がいるからです。わたしがこう言うのは、あなたがたを恥じ入らせるためです。

黙 20:5、6 (新共同訳)

20:5 その他の死者は、千年たつまで生き返らなかつた。これが第一の復活である。

20:6 第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。この者たちに対して、第二の死は何の力もない。彼らは神とキリストの祭司となつて、千年の間キリストと共に統治する。

I コリ 15:45 (新共同訳)

15:45「最初の人アダムは命のある生き物となつた」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となつたのです。

せたと言われる時、万物を従わせたかたがそれに含まれていないことは、明らかである。

15:28 そして、万物が神に従う時には、御子自身もまた、万物を従わせたそのかたに従うであろう。それは、神がすべての者にあつて、すべてとなられるためである。

15:29 そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。

15:30 また、なんのために、わたしたちはいつも危険を冒しているのか。

15:31 兄弟たちよ。わたしたちの主キリスト・イエスにあつて、わたしがあなたがたにつき持っている誇りにかけて言うが、わたしは日々死んでいるのである。

15:32 もし、わたしが人間の考えによつてエペソで獣と戦つたとすれば、それはなんの役に立つのか。もし死人がよみがえらないのなら、「わたしたちは飲み食いしようではないか。あすもわからぬいのちなのだ」。

15:33 まちがつてはいけません。「悪い交わりは、良いならわしをそこなう」。

15:34 目ざめて身を正し、罪を犯さないようにしなさい。あなたがたのうちには、神について無知な人々がいる。あなたがたをはずかしめるために、わたしはこう言うのだ。

黙 20:5、6 (口語訳)

20:5 (それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかつた。)これが第一の復活である。

20:6 この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。

I コリ 15:45 (口語訳)

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きたものとなつた」と書いてあるとおりである。しかし最後のアダムは命を与える霊

ロマ 6:3、4 (新共同訳)

6:3 それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。

6:4 わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

コロ 2:12 (新共同訳)

2:12 洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。

Ⅱテモ 1:12 (新共同訳)

1:12 そのために、わたしはこのような苦しみを受けているのですが、それを恥じていません。というのは、わたしは自分が信頼している方を知っており、わたしにゆだねられているものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです。

となった。

ロマ 6:3、4 (口語訳)

6:3 それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。

コロ 2:12 (口語訳)

2:12 あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。

Ⅱテモ 1:12 (口語訳)

1:12 そのためにまた、わたしはこのような苦しみを受けているが、それを恥としない。なぜなら、わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしにゆだねられているものを、かの日に至るまで守って下さることができると、確信しているからである。

水曜日 8月19日 復活の体

I コリント15:35～39でパウロは、復活の体についての短い論述に移ります。彼はこの箇所を、次の二つの問いを提示することで始めています。「死者はどんなふうに復活するのか、どんな体で来るのか」〔口語訳「どんなふうにして、死人がよみがえるのか。どんなからだをして来るのか」〕(I コリ 15:35)。そしてこれらの問いは、I コリント15:36～49で答えられています。

問4 I コリント 15:36～41 を読んでください。この箇所は、I コリント 15:35 の問いに、どう答えていますか。

パウロは、読者が復活において何が起こるのかを理解できるよう、三つのたとえを用いています。最初のたとえでは(I コリ 15:36～38)、体は種のようなもので、奇跡的に植物となるためには、まず死ななければ(つまり、種としての状態を終えなければ)ならないと述べています。教えは明確です。復活は神の奇跡だということ

です。第二に、体のたとえでは(同 15:39、40)、神がこの世において、動物や人間に、現在の環境に適した異なる種類の体を与えてくださったことを強調しています。同様に、私たちの体は、天上の世界で新しい状況にふさわしいものとなるでしょう。この考えは、栄光の体のたとえ(同 15:40、41)によってさらに発展し、復活の体の栄光は、それ以前の体、つまり地上の墮落した体の栄光をはるかに凌ぐことを強調しています。

この考えは、今ここにある私たちの地上の体と復活の体との間の四つの対比からも見ることができます。前者は、地上の体であり、朽ち、弱く、自然なものです。一方、後者は、天上の体であり、朽ちず、力強く、霊的です(同 15:40～44)。これは、両者の間に連続性がないという意味ではありません。パウロが、埋葬された体にも、復活した体にも、ギリシア語の「ソーマ」(「体」)という言葉を用いていることは、連続性を示しています。しかしそれとは反対に、上記の四つの対比は不連続性をも示しています。(主に感謝すべきことに)私たちの新しい体は、朽ちゆく現在の体と同じではありません。

パウロは、「霊の」という言葉を非物質的な存在と結びつけていません。彼は別の箇所でも、「(キリストは)わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださる」[口語訳「彼は、……わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう」](フィリ[ピリ] 3:21)と述べています。私たちは実際の体を持つことになりますが、それは衰えたり、朽ちたりすることがありません。私たちが今知っているのは、衰え、病い、死だけなので、これらが命を想像するのは難しいですが、それがイエスにおいて私たちに約束されていることなのです。

【参考】英語テキストにある英文

How does the assurance that our bodies will be transformed into perfection help us be resilient regarding our physical limitations today?

私たちの体が完璧な姿へと変えられるという確信は、今日の肉体的限界に対して、どのようにして私たちに回復力を与えてくれるのでしょうか。

57

I コリ 15:35～49 (新共同訳)

15:35 しかし、死者はどんなふうに復活するのか、どんな体で来るのか、と聞く者がいるかもしれません。

15:36 愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命を得ないではありませんか。

15:37 あなたが蒔くものは、後でできる体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。

I コリ 15:35～49 (口語訳)

15:35 しかし、ある人は言うだろう。「どんなふうにして、死人がよみがえるのか。どんなからだをして来るのか」。

15:36 おろかな人である。あなたのまくものは、死ななければ、生かされないではないか。

15:37 また、あなたのまくのは、やがて成るべきからだをまくのではない。麦であっても、ほかの種であっても、ただの種粒にすぎない。

15:38 神は、御心のままに、それに体を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになります。

15:39 どの肉も同じ肉だというわけではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉と、それぞれ違います。

15:40 また、天上の体と地上の体があります。しかし、天上の体の輝きと地上の体の輝きとは異なっています。

15:41 太陽の輝き、月の輝き、星の輝きがあって、それぞれ違いますし、星と星との間の輝きにも違いがあります。

15:42 死者の復活もこれと同じです。蔭かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、

15:43 蔭かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蔭かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。

15:44 つまり、自然の命の体が蔭かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけですから。

15:45「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。

15:46 最初に霊の体があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。

15:47 最初の人土は土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です。

15:48 土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。

15:49 わたしたちは、土からできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもなるのです。

フィリ 3:21 (新共同訳)

3:21 キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。

15:38 ところが、神はみこころのままに、これにからだを与え、その一つ一つの種にそれぞれのからだをお与えになる。

15:39 すべての肉が、同じ肉なのではない。人の肉があり、獣の肉があり、鳥の肉があり、魚の肉がある。

15:40 天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている。

15:41 日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。

15:42 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、

15:43 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、

15:44 肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きたものとなった」と書いてあるとおりである。しかし最後のアダムは命を与える霊となった。

15:46 最初にあったのは、霊のものではなく肉のものであって、その後に霊のものが来るのである。

15:47 第一の人は地から出て土に属し、第二の人は天から来る。

15:48 この土に属する人に、土に属している人々は等しく、この天に属する人に、天に属している人々は等しいのである。

15:49 すなわち、わたしたちは、土に属している形をとっているのと同様に、また天に属している形をとるであろう。

ピリ 3:21 (口語訳)

3:21 彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう。

問6 Iコリント 15:54~57 を読んでください。この箇所は、死に対する私たちの最終的な勝利について、どんなことを教えていますか。

Iコリント15章の最後の段落を、パウロは次のような興味深い言葉で始めています。「肉と血は神の国を受け継ぐこと(が)……できません」〔口語訳「肉と血とは神の国を継ぐことができない」〕(Iコリ15:50)。多くの聖書読者は、この言葉を用いて、パウロは、〔救われた人が〕天において霊的な存在になるという考えを擁護していると言いますが、文脈はそうでないことを示しています。Iコリント15:50の並行法的表現は、「神の国」が「朽ちないもの」と並列しているように、「肉と血」が「朽ちるもの」と並列関係にあることを示唆しています。同15:42~49と同様、パウロはここでも、現在の体(あるいは、死体)と復活した体を対比しているのです。葬られた体は、朽ちることと死すべきことを特徴としますが、復活した体は、朽ちないことと死なないことを特徴とします(同15:50、53、54)。簡単に言えばパウロは、私たちの肉体が神の国を受け継ぐためには根本的な変容を遂げる必要がある、と言っているのです。

要するにパウロは、朽ちることと死すべきことという概念を、私たちの罪深い性質を指すために用いているのです。ユダヤ教の文献では、「肉と血」は墮落した人間性をあらわす言葉であり、だからこそ私たちの体は、主が戻られる時に換えられ、すべての不完全さが取り除かれなければなりません。

私たちの罪深い性質が取り除かれ(同15:54)、私たちが栄化を経験するとき(同15:51~53、Iテサ4:13~17)、初めて「死は勝利にのみ込まれた」(Iコリ15:54)〔口語訳「死は勝利にのみ込まれた」(Iコリ15:55)〕という宣言が成就します。その時、この大胆で挑戦的な賛美が響き渡るでしょう。「死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」(同15:55、口語訳)。これらはみな、キリストの再臨の時に起こります(同15:51、52)。

考えてみてください。私たちは死んで目を閉じますが、次に経験するのは、イエスの再臨、つまり私たちが死者の中から復活させられるときです。信者はいつ死んだとしても、たとえ数千年前に死んだとしても、「最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちに」(同15:52)〔口語訳「終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして」(同15:51)〕生き返ります。「ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは換えられます」〔口語訳「ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは換えられるのである」〕(同15:52)。

人生がいかに早く過ぎ去るかを嘆いたことのない人がいるでしょうか。私たちは、イエスの再臨もそれくらい早く感じることでしょう。こんな考えは、「遅れ」と見なされていることをよりよく受け入れるうえで、いかに役立ちますか。

I コリ 15:42～57 （新共同訳）

15:42 死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、

15:43 蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。

15:44 つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけですから。

15:45「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。

15:46 最初に霊の体があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。

15:47 最初の人とは土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です。

15:48 土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。

15:49 わたしたちは、土からできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもなるのです。

15:50 兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。

15:51 わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。

15:52 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。

15:53 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります。

15:54 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている

I コリ 15:42～57 （口語訳）

15:42 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによりみがえり、

15:43 卑しいものでまかれ、栄光あるものによりみがえり、弱いものでまかれ、強いものによりみがえり、

15:44 肉のからだでまかれ、霊のからだによりみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きたものとなった」と書いてあるとおりである。しかし最後のアダムは命を与える霊となった。

15:46 最初にあったのは、霊のものではなく肉のものであって、その後に霊のものが来るのである。

15:47 第一の人は地から出て土に属し、第二の人は天から来る。

15:48 この土に属する人に、土に属している人々は等しく、この天に属する人に、天に属している人々は等しいのである。

15:49 すなわち、わたしたちは、土に属している形をとっているのと同様に、また天に属している形をとるであろう。

15:50 兄弟たちよ。わたしはこの事を言うておく。肉と血とは神の国を継ぐことができないし、朽ちるものは朽ちないものを継ぐことがない。

15:51 ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。

15:52 というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によりみがえられ、わたしたちは変えられるのである。

15:53 なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。

15:54 この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就する

言葉が実現するのです。「死は勝利にのみ
込まれた。

15:55 死よ、お前の勝利はどこにあるの
か。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」

15:56 死のとげは罪であり、罪の力は律
法です。

15:57 わたしたちの主イエス・キリスト
によってわたしたちに勝利を賜る神に、
感謝しよう。

I テサ 4:13~17 (新共同訳)

4:13 兄弟たち、既に眠りについた人々
については、希望を持たないほかの人々
のように嘆き悲しまないために、ぜひ次
のことを知っておいてほしい。

4:14 イエスが死んで復活されたと、わた
したちは信じています。神は同じように、
イエスを信じて眠りについた人々をも、
イエスと一緒に導き出してくださいませ
ます。

4:15 主の言葉に基づいて次のことを伝
えます。主が来られる日まで生き残るわ
たしたちが、眠りについた人々より先
になることは、決してありません。

4:16 すなわち、合図の号令がかかり、大
天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り
響くと、主御自身が天から降って来られ
ます。すると、キリストに結ばれて死ん
だ人たちが、まず最初に復活し、

4:17 それから、わたしたち生き残ってい
る者が、空中で主と出会うために、彼ら
と一緒に雲に包まれて引き上げられま
す。このようにして、わたしたちはいつ
までも主と共にいることになります。

のである。

15:55 「死は勝利にのみ込まれてしまった。死
よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。

死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」。
15:56 死のとげは罪である。罪の力は律
法である。

15:57 しかし感謝すべきことには、神は
わたしたちの主イエス・キリストによっ
て、わたしたちに勝利を賜ったのであ
る。

I テサ 4:13~17 (口語訳)

4:13 兄弟たちよ。眠っている人々につ
いては、無知でいてもらいたくない。望み
を持たない外の人々のように、あなたが
たが悲しむことのないためである。

4:14 わたしたちが信じているように、イ
エスが死んで復活されたからには、同様
に神はイエスにあって眠っている人々を
も、イエスと一緒に導き出して下さるで
あろう。

4:15 わたしたちは主の言葉によって言
うが、生きながらえて主の来臨の時まで
残るわたしたちが、眠った人々より先
になることは、決してないであろう。

4:16 すなわち、主ご自身が天使のかしら
の声と神のラッパの鳴り響くうちに、合
図の声で、天から下ってこられる。その
時、キリストにあって死んだ人々が、ま
ず最初によみがえり、

4:17 それから生き残っているわたした
ちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げ
られ、空中で主に会い、こうして、いつ
も主と共にいるであろう。

金曜日 8月21日 さらなる研究

参考に、『各時代の争闘』第40章「神の民の救出」を読んでください。

「キリストの神性は、永遠の生命についての信者の確信である。『わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか』と、イエスは言われた(ヨハネ 11:25、26)。キリストはここで、ご自分の再臨の時を予期しておられる。その時、死せる義人は朽

ちない者としてよみがえり、生ける義人は死を見ないで天へ移されるのである。キリストがラザロを死人の中からよみがえらせることによって行おうとしておられた奇跡は、死せるすべての義人のよみがえりを代表するのであった」(『希望への光』950 ページ、『各時代の希望』第 58 章)。

「神のみ子の声が、眠っている聖徒たちを呼び起こすと、地は激しく揺れた。彼らはその呼び声に応じて、輝かしい不死を身にまとい、『死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか』と叫びながら現れた(Ⅰコリント 15:55 参照)。

次に生ける聖徒たちと、よみがえった聖徒たちが声を合わせ、無我夢中になって高らかに勝利の叫びをあげた。病氣と死のしるしを負って墓に下っていた人々は、不死と健康と活力をもって現れた。生ける聖徒たちは、またたく間に化せられ、よみがえった聖徒たちと一緒に、空中において主に会った。なんというすばらしい再会だろう。死に別れていた友だち同士は出会い、もう決して別れることがないのだ」(『生き残る人びと』第 61 章 463、464 ページ)。

話し合いのための質問

- ① キリストの復活を目撃した人々について、考えてください(使徒 1:22、2:32、3:15、4:33、5:30~32)。それから約 2000 年経った今、私たちはいかにしてキリストの復活の「証人」となることができるでしょうか。
- ② キリストの復活は、福音のメッセージの不可欠な要素です(Ⅰコリ 15:1~4)。復活がなければ、キリストの死を告げ知らせることは無意味であり(同 15:14)、キリストの死そのものも無意味でしょう。なぜですか。この質問に対するあなたの答えは、キリストの復活の力について、何を物語っていますか。
- ③ 「もし、死者が復活しないとしたら、『食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか』」[口語訳「もし死人がよみがえらないのなら、『わたしは飲み食いしようではないか。あすもわからぬいのちなのだ』」](Ⅰコリ 15:32)という、パウロの興味深い言葉について、少し考えてみましょう。この言葉の要点は何ですか。
- ④ 安息日学校のクラスで、死者の状態について話し合ってください。救われた者が死ぬとすぐに天に召されるとしたら、なぜⅠコリント 15 章は意味をなさないのでですか。

59

ヨハ 11:25、26 (新共同訳)
11:25 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。
11:26 生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」

ヨハ 11:25、26 (口語訳)
11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。
11:26 また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか。」

I コリ 15:55 (新共同訳)

15:55 死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」

使徒 1:21-22 (新共同訳)

1:21-22 そこで、主イエスがわたしたちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた者の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、主の復活の証人になるべきです。」

使徒 2:32 (新共同訳)

2:32 神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。

使徒 3:15 (新共同訳)

3:15 あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。

使徒 4:33 (新共同訳)

4:33 使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証し、皆、人々から非常に好意を持たれていた。

使徒 5:30~32 (新共同訳)

5:30 わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。

5:31 神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。

5:32 わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証しておられます。」

I コリ 15:1~4 (新共同訳)

15:1 兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。

15:2 どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われま

I コリ 15:55 (口語訳)

15:55 「死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか。」

使徒 1:21、22 (口語訳)

1:21 そういうわけで、主イエスがわたしたちの間にゆききされた期間中、

1:22 すなわち、ヨハネのバプテスマの時から始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日に至るまで、始終わたしたちと行動を共にした人たちのうち、だれかひとりが、わたしたちに加わって主の復活の証人にならねばならない」。

使徒 2:32 (口語訳)

2:32 このイエスを、神はよみがえらせた。そして、わたしたちは皆その証人なのである。

使徒 3:15 (口語訳)

3:15 いのちの君を殺してしまった。しかし、神はこのイエスを死人の中から、よみがえらせた。わたしたちは、その事の証人である。

使徒 4:33 (口語訳)

4:33 使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた。

使徒 5:30~32 (口語訳)

5:30 わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスをよみがえらせ、

5:31 そして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右に上げられたのである。

5:32 わたしたちはこれらの事の証人である。神がご自身に従う者に賜わった聖霊もまた、その証人である」。

I コリ 15:1~4 (口語訳)

15:1 兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受け入れ、それによって立ってきたあの福音を、思い起してもらいたい。

15:2 もしあなたがたが、いたずらに信じてないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によっ

す。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。15:3 最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、

15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、

I コリ 15:14 (新共同訳)

15:14 そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。

I コリ 15:32 (新共同訳)

15:32 単に人間的な動機からエフェソで野獣と闘ったとしたら、わたしに何の得があったでしょう。もし、死者が復活しないとしたら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」ということになります。

て救われるのである。

15:3 わたしが最も大切なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであった。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、

15:4 そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと、

I コリ 15:14 (口語訳)

15:14 もしキリストがよみがえらなかったとしたら、わたしたちの宣教はむなし、あなたがたの信仰もまたむなし。

I コリ 15:32 (口語訳)

15:32 もし、わたしが人間の考えによってエバソで獣と戦ったとすれば、それはなんの役に立つのか。もし死人がよみがえらないのなら、「わたしたちは飲み食いしようではないか。あすもわからぬいのちなのだ」。

【参考】副読本にある《概要》を転載します。

パウロはコリントの信徒への手紙 I (コリント人への第一の手紙) 15章で、キリストの復活がクリスチャン信仰と希望の根幹であると教えています。もしキリストが死者の中からよみがえられなければ、説教や信仰は無意味で、罪は赦されず、未来の希望もなかったでしょう。キリストの復活が過去のことであることを踏まえ、パウロは来るべき復活を信じないのは道理に反していると主張します。キリストの復活が歴史的出来事であることを否定する者からすると、復活の証人の数は驚くほど多いのです。これはキリスト教信仰にとって非常に重要なことであり、パウロはこの15章で、ルカは使徒言行録(使徒行伝)でこの点について時間を割いて議論しています。使徒言行録(使徒行伝)は、使徒たちがイエスの復活を絶えず宣べ伝えていたことを教えています。パウロはキリストを「初穂」として描写し、すべての信者にとって来るべき復活の保証であると述べています。パウロは、復活した体は不死で朽ちることがないと主張しています。最終的に、彼は死に対する最終的な勝利を祝い、それが私たちのためのイエスの御業の実であると宣言しているのです。